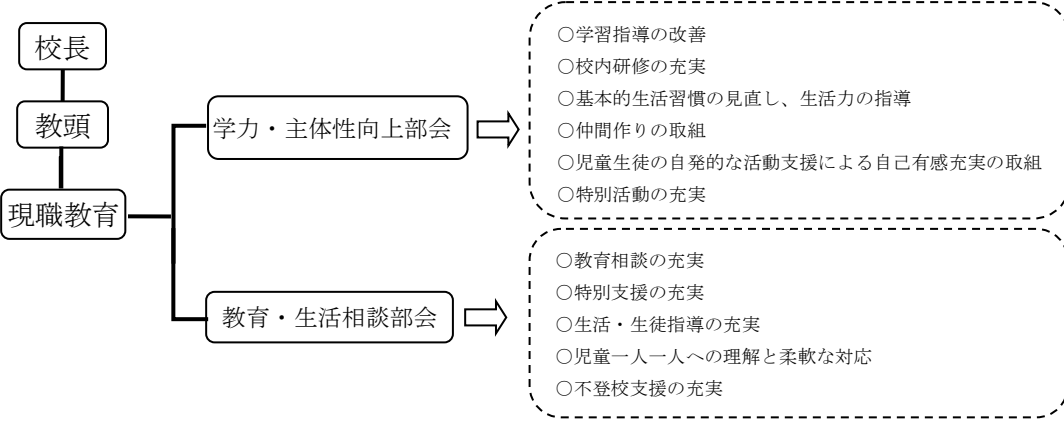


研究主題

学校名	九度山町立河根小中学校
研究主題	人・地域に学び、自己有用感をもち自己表現できる児童生徒の育成 ～個を大切にした教科指導、人との関わりを通して～
主題設定の理由	<p>本校は豊かな自然に囲まれた山間に位置する小学校と中学校が隣接した小規模校である。児童生徒は落ち着いて学校生活を送っており、日々の学習や部活動に取り組んでいる。近年の少子化に伴い、校区内の児童生徒がいなくなり、校区外から本校のような小規模校で、少人数で静かな学習環境を希望して、転入してくる児童生徒が多く在籍している。</p> <p>本校児童生徒は、優しく素直であり、少人数の中で学び直しをしたい、自分に合ったペースで学習したい、学校生活に慣れていきたいと思っている。しかしながら、個の課題も多く、それぞれが転校前のつまずきを持ち、出身が異なる児童生徒の交流となる。よって他者との交わりに苦手意識をもったまま転入・転校してきた児童生徒が安心して登校できるような取組を行うことが重要である。そこで、これまで児童生徒の実態に応じて、個々が安心して登校できるような学校行事や学級活動に取り組み、交流機会を多く設定してきた。</p> <p>具体的な取組としては、日々の「地域交流」「みんな遊び」「発表タイム」「委員会活動」や運動会、文化祭、野外活動などの様々な学校行事、総合的な学習の時間による自主的な活動を通して、児童生徒の絆を深め、個性を認め合える関係性を築き、合意形成をさせながら、安心して学校へ登校できるようにしてきた。また、これらの活動を通して、地域の人と積極的に関わる機会を設けることで、将来、社会に出ていくために必要な社会性や自立に向かう力の育成を促してきた。</p> <p>昨年度までの研究として、不登校の経験や学習のつまずきを抱えた児童生徒が多いため、「人・地域に学び、個々の目標に向かおうとする児童生徒の育成」を主題に、学ぶ楽しさを感じてもらうため、興味関心のあることを教材にした授業、できたという自信を持たせるためのスモールステップの授業など、個に合わせた学習指導方法を行ってきた。また児童生徒の特性を全職員で共通理解しながら、仲間作りを進めてきた。その結果、個人差はあるが勉強することの大切さや勉強がわかる喜びを感じ、自己肯定感や自己有用感を持ちながら、成長することができた。さらに様々な体験を通して児童生徒間の関係性や先生との信頼関係が形成され、「チーム河根」として仲間を大切にする気持ちが育ってきたと感じている。</p> <p>よって、今年度も個々の学習状況や課題が多様であるため、昨年度に引き続き「個を大切にした教科指導」を心がけ、個の特性を理解し配慮しながら、学ぶことが楽しいと思える授業づくりや学校作りを研究したい。そして、特別な支援が必要な児童生徒については、個々の学習上の特性を見極め、学習支援の具体策を研究し、教職員同士で連携しながら、より効果的な指導を行う。また、人との関わりを通して、信頼関係を築くための様々な取組を行っていく。</p> <p>このようなことから今年度の主題を上記のように設定した。</p>

<p>研究内容</p>	<p>1 確かな学力の向上 (1) 「学びに向かう力」を育成するための授業内容や指導方法の研究 (2) 個の特性に合わせた学習指導方法の研究 (3) 思考力・判断力・表現力の育成のための授業方法の研究 (4) 読書習慣をつけさせるための手立ての研究 (5) 家庭学習を充実させるための手立ての研究</p> <p>2 豊かな心の育成 (1) 特別支援教育の効果的・具体的な授業方法の研究 (2) SC、SSWと連携した教育相談体制の充実 (3) 一人一人の豊かな心を育て、よりよい生き方を考えさせる教育の研究</p> <p>3 健康安全教育の推進 (1) 生活リズムチェック表を使った基本的な生活習慣の見直し (2) 「みんな遊び」「体力向上」「部活動」を通しての体力向上と仲間づくりの研究</p>
<p>研究組織</p>	 <pre> graph TD A[校長] --> B[教頭] B --> C[現職教育] C --> D[学力・主体性向上部会] C --> E[教育・生活相談部会] D --> F["○学習指導の改善 ○校内研修の充実 ○基本的な生活習慣の見直し、生活力の指導 ○仲間作りの取組 ○児童生徒の自発的な活動支援による自己有感充実の取組 ○特別活動の充実"] E --> G["○教育相談の充実 ○特別支援の充実 ○生活・生徒指導の充実 ○児童一人一人への理解と柔軟な対応 ○不登校支援の充実"] </pre>
<p>研究方法</p>	<p>○学力・主体性向上部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員で、「教員同士の授業参観」により、学びに向かう力を育成するための指導法や自分の考えを伝える力（表現力）を育成するための指導法の研究と共有を進める。 ・全国学力・学習状況調査や町標準学力検査、県学習到達度調査、普段の授業の様子を通して、個々の学習課題を明確にし、指導法の工夫・改善を図る。 ・「家庭学習の手引き」「自主勉強の工夫の仕方」「家庭学習の掲示」を研究し、家庭学習が充実するための取組を行う。 ・「発表タイム」「読書タイム」を研究し、充実した学校生活を送るための取組を行う。 ・「学校活動」「委員会活動」「体力向上」を通じて、児童生徒の自主性溢れる活動を促したり、体力向上や健康維持につながったりする取組を行う。 ・「みんな発表」「みんな遊び」を行い、児童生徒が主体的に考えて活動することを通して、自主性を育てたり、仲間意識を向上したりする取組を行う。 <p>○教育・生活相談部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズムチェック」を行い、基本的な生活習慣の見直しと生涯にわたって必要な生活力の適切な指導をする。 ・「支援学級授業担当者会」「全児童生徒支援会議」を行い、子どもの特性に合わせ、特別支援教育の視点を持った学習指導のあり方、具体的で効果的な教材を研究し、情報交換、見直しを行う。 ・多角的な視点を取り入れた支援会議を行う。 ・児童生徒の特性の共通認識や課題解決に向けての情報交換や生活・生徒指導において、職員での共通認識を図るための会議を行う。 ・SC、SSW、関係機関等と連携した支援方法を探る。 ・「心情の可視化（デイケン）（「ニコリアンケート）」や「出席率の可視化」により、子ども一人一人への理解と柔軟な対応を行い、登校率の向上を行う。 ・不登校支援による研修の充実 ・小中の連携を密に行うための情報共有会を行う。